かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第３１号（令和２年７月）

牧野の文保二年追分板碑

ミドリ「コロナはまだまだこわいけど、少しずつ動けるようになってきたわね。」

あゆむ「今日は、もっと遠くへ行きたいな。」

ふみお「今回は、追分とか、街道のことをさらに調べるんだったよね。」

文じい「ふむ、そうなんじゃが、実はこの前、三本松の追分板碑を調べたときに、間違ったことを言ってしまったので訂正しておかなければならない。」

ミドリ「あら、どういうこと？」

文じい「七夕をしないようになったのが三本松地区と言ってしまったが、七夕に襲われて命を落としたという大山沢のいた阿弥陀地地区だったんじゃ。」

ふみお「あ、それならつじつまが合うね。」

文じい「しかも、“しこ名”は大山沢ではなく、大沢山だという話も聞いた。本には、大山沢と書いてあったのだが・・・。」

ふみお「確かに大沢山という方がしこ名らしく感じるね。」

文じい「もう少し調べていくことにしよう。」

あゆむ「ところで、今日はどこ？」

文じい「まず、牧野じゃ。」

ミドリ「あら、また牧野ね。行きましょう！」

文じい「さあ、あの板碑じゃ。」

あゆむ「おお、三本松のより小さめだけど。」

ミドリ「種子が３つ並んでいる。あ、これって三尊だったわね。えーと、中央上の種子は、何だったかしら・・・？」

ふみお「種子の本で調べると、“ア”で“胎蔵界大日如来”だね。」

ミドリ「その下に２つ並んでいるのは、確か“サ”と“サク”、つまり、“観音菩薩”と“勢至菩薩”だったんじゃなかった？」

文じい「その通りじゃ。よく覚えておったの。」

ふみお「中央がキリークの阿弥陀如来の時は、阿弥陀三尊といったから・・・。」

ミドリ「じゃあこれは、大日三尊というわけ？」

文じい「そういうことになるの。」

あゆむ「下には何て彫ってあるんだ。」

ふみお「あれ、右下に、右ハ山・・・。」

ミドリ「左下は、左ハという感じに見える。」

文じい「文化財の本の説明によれば、次のように彫られているらしい。」

右ハ山みち
右志者為先考
幽儀法界利益
文保二年
戊午二月十一日
相當一周忌
同前造立如件
左ハ正部道

文じい「文保二年は、1313 年。」

ふみお「やっぱりこれも親の一周忌供養碑だったのに、後から行き先を彫って追分の碑にしたんだな。」

あゆむ「下の方は完全に見えていないよね。」

ミドリ「土で埋まっちゃったのね。倒れないようにしたんでしょうね。」

ふみお「山道とか正部道といえば・・・？」

文じい「山道は字の通りだが、正部は菖蒲地区のこと。それで、この碑は追分碑として使われるときに移され、その後の道路工事で、さらにここに移されたようなんじゃ。」

ミドリ「この追分は、行き先が山とか菖蒲という近いところだけど、三本松の碑は米沢とか江戸だったわね。」

あゆむ「三本松の碑は大事な追分だったのかな。」

ふみお「〇〇道というのは行き先を言うようで、道の名前のようでもあるね。“羽州街道”という街道名もあるし、どういう関係なのかな。」

文じい「ふむ、それを考える上でおもしろいところがある。ちと、上山から離れるが。」

あゆむ「お、それはどこ？　行ってみよう！」

ミドリ「楢下を通って峠道に入ってきたわ。」

ふみお「金山峠だったよね。ここを越えれば宮城県の七ヶ宿町だ。」

文じい「さらに行けば、やがて福島県の桑折というところに行き、そこで、江戸から仙台や青森に通じる道、“奥州街道”と出会う。」

ミドリ「それじゃ桑折にも追分の碑があるのね。」

文じい「そうなんじゃが、ま、そこまでは行かなくとも間もなく目的の碑がある。」

あゆむ「あ、あれだな。」

左ハ　米さ王海道　　右ハ　もかみ海道

＜羽州・二井宿街道の追分石＞

ミドリ「左ハ米さ王。よねさわ、米沢ね。」

あゆむ「じゃあ、右ハ、も、か、み・・・？」

ふみお「左ハ米沢海道。右ハ最上海道かな？」

文じい「よく読めたな。左は、二井宿から米沢へ。右は、上山・山形、つまり、最上へ。それで、海道は街道のこと。道は、古くは海沿いの道が多かったので“海”の字が使われたが、やがて、道が広がり“街”の字が使われるようになってきた。」

あゆむ「道の名は、行き先を表しているんだね。」

文じい「そう、三本松の碑に米沢道とあったけど、米沢の方からは、最上道と呼ばれた。」

ミドリ「じゃあ、羽州街道という呼び名は？」

文じい「実は、なかったんじゃ。街道の名は、東海道などの五街道だけで、あとは地域や行き先を示す名前で十分だった。七ヶ宿でも、“山中七ヶ宿通り”などとも呼ばれたようで、羽州街道の呼び名は明治時代以後、特に歴史の研究や説明をしていくのに必要だったかもしれないの。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）